

すぽっとライト

NO. 43

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、真言宗善通寺派の樫原禅澄管長に、近年のお遍路ブームや、「四国八十八ヶ所霊場と遍路道」の世界遺産を目指す取り組みが行われている中、お寺を核とした地方活性化やお寺のバリアフリー化の取り組みについてお話を伺いました。

インタビュー



善通寺派 樫原管長

🕒 善通寺境内をご案内していただいたのですが、広大な敷地の中に重要文化財の「金堂」、「五重塔」、弘法大師の誕生の地「御影堂」、樹齢千数百年の大楠と由緒ある建造物とみどころがあり、別世界に来ているような感じがあります。

善通寺は真言宗の一つの宗派である「善通寺派」の総本山です。全国に末寺と呼ばれる 250 ヶ寺の所属寺院があります。例年は四国八十八ヶ所参りの参拝者が今頃の季節に多く訪れますが、今年は 4 年に 1 度の逆打ちで 60 年に 1 度の丙申の年であると言われています。このため 1~4 月頃までに多くの参拝者がありました。また、年間では平均約 70 万人の方が訪れます。善通寺の境内は 4 万 5 千平方メートルと東京ドームと同じくらいの広さです。寺は平安時代の 807 年に弘法大師「空海」の父である佐伯善通を開基として創建されました。弘法大師の生誕の地である伽藍は、創建の地である東院と弘法大師生誕の地である西院に分かれ、弘法大師の遺徳をたたえるさまざまな建造物や由緒地が点在し、国宝、重要文化財以外に数万点の文書、記録類が保管されています。善通寺は和歌山の高野山、京都の東寺とともに弘法大師三大霊場に数えられ、四国八十八ヶ所霊場第七十五番札所となっています。

🕒 お寺、神社は古来より、地域コミュニティの中心として、また、「まち」の顔として、参拝者を受け入れながら歴史、文化を伝える役割を果たす場だったと思います。



昔のお寺は、歴史、文化の学びの場であり、情報発信の場であり、心のよりどころの場でもありました。しかし、近年は、結婚式を簡易に人前で行う人や、葬式に「もうお寺さんと呼ばなくてもいい」と考える人も増え、価値観も多様化しています。

お布施やお賽銭や人口減による檀家の減少、御祈祷ニーズの減少により経営が厳しくなっているお寺も生まれてきています。

幸いにも平成 26 年は節目の年で四国霊場開創 1,200 年の PR 効果もあり、善通寺への参拝者は前年の 3 割増しでした。節目の年でなくても増える時があります。不景気の

時です。

お寺の新しい課題として、他の産業でも問題となっている人手不足があります。僧侶不足、跡継ぎ不足により後継者がいないお寺もでており、頭の痛い問題です。僧侶の労働環境は厳しく、土・日・祝日もお寺の行事、法事等があり、多くのお寺では休日が少ないことも事実です。

お寺のおかれている状況も変化しています。お寺は地域のコミュニティの核で、生活の場として歴史・伝統・文化・信仰の中心、継承の場でしたが、最近では、観光や交流の場といった側面も感じます。お寺の持つ物理的・心理的機能も時代とともに変化しているのではないのでしょうか。

 政府も成長戦略の柱として観光立国の実現に向けて官民一体となった施策を展開しています。観光は交通、宿泊、飲食、お土産と幅広い産業に貢献している他、インバウンドの増加による消費の伸びも堅調で、爆買いと言った新たな言葉も定着しました。お寺、神社は日本文化をPRする地域の宝であり、伊勢神宮、出雲大社の式年遷宮時は、多くの観光客が訪れ地方活性化に繋がっています。

お寺、神社も信仰や伝統文化の継承により人を集めるといった集合体から変化していると思います。10 年前には想像もできなかったことですが平成 26 年の四国霊場開創 1,200 年頃から四国八十八ヶ所霊場巡りがブームとなり、若い女性、カップル、インバウンドの参拝者も大変多くなってきています。新しい層、今まで考えていなかった層が参拝にお見えになっています。

最近では、参拝に加え座禅、写経、阿字観など仏教を体験する新たなブームも生まれていますし、外国人の参拝者の増加は、国のインバウンド施策の影響もありますが、外国人にとってお寺、神社は「日本の歴史」、「日本の文化」

を知ることに加え「日本らしさを体験」できる場となっていると思います。お寺の風景に加え、畳の上での生活、参拝、座禅、精進料理を食べることにより、「日本らしさ」や「日本でしか体験できないコト」を体験する、いわゆるコト消費の体験の場となっているのではないのでしょうか。

 地方創生のかけ声のもと、観光分野における地域間競争もはじまっています。そうした中で、今後の四国においては、どのような取り組みを進めたら良いのでしょうか。

仕事の関係で全国を飛び回り、いろんなところに行き、見て、いろんな職種の方と話をさせていただく機会があります。インバウンドにしてもゴールデンルート、北海道、九州はすさまじい勢いで伸びて宿もとれない場所もあります。四国も少しインバウンドが増えたくらいで浮かれています。もっとももっと四国の良さを情報発信しないといけないと思います。

善通寺に観光客が増えた、高松に宿泊客が増えた、四国にインバウンドが増えたとの話でなく、四国全体として、旅行者の嗜好の変化や多様性、隠れた観光資源を地道に観光客の目線でとらえ、点から線、線から面に繋げ、四国への長期間滞在者を増やす。このためには広域的な観光推進の行程表の作成も必要かと思います。その一つのツールとして、お寺を通して新たな人の交流が生まれ四国の各地域が活性化され、地域経済が良い方向に進んでいけばと願っています。

平成 26 年の四国霊場開創 1,200 年の時はイベントを積極的に開き、善通寺市や四国霊場巡りを PR するために全国各地に出向きました。一度四国へ行ってみようか、観光のついでにお寺参りをしてみようかと思ってもらえればと実施しました。イベントでよく行うのが「出開帳」です。デパートの催事場などに各寺院の本尊や秘仏を持ち込んで、立ち寄った買い物客に拝んでいただき、数時間で四国八十八ヶ所をお参りした気分になってもらうものです。これに合わせて四国の物産展も開いて興味を引くようにし、四国や善通寺を訪れるきっかけに繋げていくように心がけました。各地で開催するイベントで特に盛り上がり、熱心なのは名古屋の人で、四国遍路のファンが多いと思います。この前出開帳では会場に人が溢れました。愛知の知多半島には、知多四国八十八ヶ所霊場があるので親近感を抱き、一度は本場の四国に行かないと、と思っているのではないのでしょうか。



「善い交通」を願う交通安全祈願のお守り

交通安全祈願のお守りは大変好評で評判の良いお守りとなっています。テレビのCMに出たり、団体の参拝者の方との記念撮影、握手もしています。地域の人たちに支えられ善通寺の今がある、この恩返しだと思っています。

善通寺ではゴールデンウィークに五重塔の内部を公開し、6月の弘法大師の誕生日を祝う法会（ほうえ）では普段見ることのできない国宝「金銅錫杖頭」（こんどうしゃくじょうとう）を特別に公開しました。平成26年に開かれた「四国へんろ展」では国宝の他、金剛力士像を公開しました。

どうすれば多くの人に善通寺に来てもらえるかをいつも考えています。

「善通」を善（よ）い交通とした交

🕒 今、「お遍路」が大変なブームとなっています。「お遍路」について、教えてください。



「お遍路」とは、弘法大師「空海」が修行を行った地として伝えられるお寺、弘法大師の足跡を訪ねて巡礼することです。遍路の起源は平安時代で、室町時代から江戸時代に初めにかけて一般庶民にも広がりしました。一番札所の徳島の霊山寺から高知、愛媛と回り八十八番札所の香川の大窪寺まで行程は1,400キロ、この道中には香川の神恵院と観音寺

のように札所間が隣同士のところもあれば、次の札所まで100キロほど離れている札所もあります。急峻な山岳の寺もあれば、海の近く、街中、田園地帯、また夏の暑さ、秋の紅葉、冬の雪と色々な景色と自然を見て体験するとともにいろんな出会いもあります。お遍路の目的は、健康祈願、自分探し、開運など人それぞれです。巡礼者が持つ笠には同行二人と書かれており、一人は自分、もう一人は弘法大師を意味し、弘法大師と二人で巡礼の道を歩くことが「お遍路」です。

🕒 千二百年もの長い歴史と地域の象徴として継承されている「四国八十八ヶ所霊場と遍路道」の世界遺産登録を目指した活動が進められています。

平成 22 年 3 月から「四国八十八ヶ所霊場と遍路道」の世界遺産登録推進協議会が経済団体、国、自治体、大学他で構成され世界遺産登録に向けた活動を実施しています。現在は普及啓発、普遍的価値の証明等を取りまとめており、今年度中に文化庁の暫定リスト入りを目指している段階です。もし、登録されたら、信仰でというより観光目的で四国に来る人でごった返すでしょう。讃岐弁で言うと「わや」になるかも知れません。

ただ、「地元の人たちの機運が高まっていない」、「その気になっていないのでは」、と感じています。数年前、岩手からお遍路さんに来た団体客の方と記念撮

影をしたときに中尊寺の近くに住んでいるという女性が「管長さん、四国からも中尊寺の世界遺産登録を応援して下さい」と目を輝かせて言ってきました。彼女は中尊寺の関係者でも何でもない地元の人です。ご存じのように地元の人々の熱意もあり、後に中尊寺は世界遺産に登録されました。京都では列車に「天橋立を世界遺産に」とラッピングがあり、役場・小学校にも旗が立っていました。面白いところでは「祝 世界遺産」と書かれた土産物が売られ、よくみると小さな字で「祈」と書いてありました。残念ながら四国ではそういうことはありません。お遍路さんの姿を見たことが無いという地域もあります。遍路道は範囲が広く、四国 4 県が一つにまとまるのはなかなか難しいとは思いますが、四国でも世界遺産登録に向け、自治体、企業、住民の方々の気運を盛り上げる必要があります。まだまだ道のりは遠いと思いますが、夢を叶えるため四国一丸となり、しつこいくらい世界遺産登録を PR し、四国の魅力を世界の人達に知ってもらうことが重要と思っています。



世界遺産登録推進協議会作成のポスター

🕒 ご案内いただいた、御影堂にもスロープが設置され、多機能トイレも各所にあり、バリアフリーのお寺となっていますが、バリアフリーに関しての取り組みをお聞かせ下さい。



スロープが設置された御影堂

まだまだ境内がバリアフリーとはいえません。今後、お寺をどうバリアフリー化するかの問題は時間もかかります。お寺は文化庁の所管で歴史遺産であることから、本堂へのスロープ、多機能トイレの設置についても厳しい審査があるほか、考古物、埋蔵物がないかの調査のため 30 cm以上の掘り下げも必要となっています。

ただ、手をこまねている訳ではありません。時代のニーズもありますし、参拝者の方も高齢化しています。障がい者、妊婦さん、外国人の方もお参りにきます。今後も可能な箇所から階段の段差解消、多機能トイレの導入、外国語の案内標識の設置について積極的に取り組んでいきます。



スルー型エレベーター



障がい者の方に配慮したベッドルーム



多機能トイレ

善通寺では、年末年始の参拝客が多い時期には高齢者、障がい者の方のために臨時のスロープをこの期間だけ用意しています。宿坊にも段差解消のためにスロープを設置、大浴場にも手すりを取り付けました。高齢者の方もお風呂を利用者しやすくなったと思います。障がい者の方が宿泊しやすいようにベッドルームもあり、この部屋の前に多機能トイレを設置するなど配慮をしています。

近年多くなった外国人の参拝者に対しても英語、中国語（繁体字・簡体字）韓国語と 4 か国語のパンフを用意し、境内の案内用記号も順次整備、増設を検討しています。

善通寺には現在、僧侶・事務方を併せて 64 人が働いていますが、ソフトの面の充実を図るため接遇、外国語教育にも力をいれて取り組んでいます。参拝者は僧侶より、納経所の職員と接する機会も多くこの職員の印象が悪ければお寺のイメージも悪くなります。外国語教育もお経を唱えるようにとはなかなかいきませんが努力していきます。まだまだ完璧にはほど遠いですが、誰もが安心して参拝しやすいお寺を目指していますので運輸局さんにも指導をお願いします。

 最後に、今後の抱負をお聞かせ下さい。

お遍路さんたちで、四国参りに魅せられてしまった人を「四国病」、遍路参りに魅せられたしまった人を「遍路病」といいます。毎年のように四国へお越しになる、善通寺に顔を見せに来てくれる人は大変多く本当にありがたい限りです。

お寺という言葉には、人が集まる場所という意味もあります。お寺を地域のみんなの物にする。多くの人が集まり、楽しんでもらうにはどうするか、これは永遠のテーマです。

お大師さんは真言宗の開祖ですが、浄土宗でも禅宗でも誰でも受け入れます。男女、年齢、職業や身分も関係ない、常に庶民の味方でした。このお大師さんの精神と併せて四国という素晴らしい場所を世界中に伝え、後世まで残していきたいのが私の役目だと思っています。

インタビューを終えて



当初、30分の予定だったインタビューは3時間にも及びましたが、樫原管長のお話に私たちもすっかり魅了されました。

現代社会は様々なストレスに満ちあふれており、ストレスから逃げることはなかなか難しいことですが、見知らぬ土地で見知らぬ人たちの施し

を受ける四国八十八ヶ所参りは、疲れた身体と心を癒す有効なツールのひとつであり、まさしく「心の旅」ではないでしょうか。

インタビュー実施日：平成28年10月13日（木）・聞き手：井上、久保田、竹内